

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3107059号
(U3107059)

(45) 発行日 平成17年1月27日(2005.1.27)

(24) 登録日 平成16年11月17日(2004.11.17)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 H 63/08

F I

B 6 5 H 63/08

A

評価書の請求 有 請求項の数 1 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2004-5261 (U2004-5261)

(22) 出願日 平成16年8月5日(2004.8.5)

(73) 実用新案権者 503221067

安田 仁

埼玉県所沢市中新井2丁目178番地の1

富士見台ハイツB-102

(72) 考案者 安田 仁

埼玉県所沢市中新井2丁目178番地の1

富士見台ハイツB-102

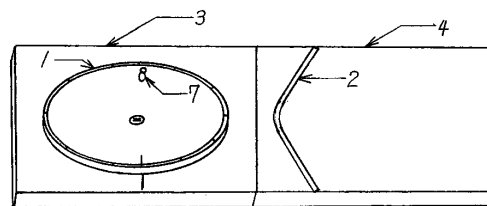
(54) 【考案の名称】 糸巻取装置

(57) 【要約】

【課題】糸が巻かれた市販スプールから、作業者が移動せずに、又、道具を移動させずに、既作成の糸と略同じ長さの糸を卓上にて取り出すこと。

【解決手段】当市販スプールから糸を巻き取る回転体を持ち、回転体に既作成の糸と略同じ長さの糸を巻き取る卓上型装置を考案した。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

スプール台 4 に市販スプールを囲むレール 2 を取り付けることによって中心部分の形状が種々ある市販スプールに対応してその移動を制限すること、回転体 1 を回転方向が台 3 の取り付け面と平行になるよう取り付けることによってより良好な収納性を確保すること、及び、回転体 1 に記録スペース 5 と色分け 6 を設けることにより使用者が情報を記録し以後の作業が簡便となることを特徴とする糸巻取装置。

【考案の詳細な説明】

【はじめに】

【0001】

10

本考案は、考案者を同一人とする実用新案登録第 3101980 号の考案を部分的に取り出し改良したものである。

【技術分野】

【0002】

本考案は、糸の巻かれた市販スプールから糸を取り出し、既作成の糸と略同じ長さだけ巻き取る装置に関するものである。

【背景技術】

【0003】

従来、糸の巻かれた市販スプールから、その糸を既作成の糸と略同じ長さだけ取り出す際、短い長さなら短いスケールを使って移動せずに糸を測りながら当市販スプールから取り出すことができるが、長い長さの場合、人が糸の端を持ちスケールに沿って移動するか、或いは、長さの既知の棒状のものに合わせて棒を移動させながら当市販スプールから糸を取り出していた。

20

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

糸の巻かれた市販スプールから、既作成の糸と略同じ長さだけ糸を取り出す際に、スケールに沿った人の移動、又は、スケール代わりの棒の移動と云った煩雑、或いは、部屋の中での作業は不可能とも感ずる作業を伴う問題点があった。

【0005】

30

本考案は、当市販スプールから、既作成の糸と略同じ長さだけ糸を取り出す際、作業者が移動せず、道具も移動させないで卓上で糸を取り出すことを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

糸の巻かれた市販スプールから、既作成の糸と略同じ長さだけ巻き取る卓上型装置を提供する。

【0007】

この装置は、平面上に置いた市販スプールから糸を引っ張って取り出す際の市販スピールの移動を制限するレールを有する構造のスプール台、及び、記録スペースと色分けした外周を有しスムーズに回転する回転体を回転方向が取り付け面に平行になるように取り付けた台からなる。

40

【0008】

スプール台と台は蝶番などで接続し二つ折りにでき、或いは、二つ折りにしたスプール台又は台を箱形にして回転体を箱の中に収納できるようにすることも可能である。

【考案の効果】

【0009】

既作成の糸を回転体に巻き取り、巻き取った糸の端の位置にマークを記録し、その近傍に巻き取りに要する回転体の回転数、回転方向、他の情報を記録して、以後、この記録に従って回転体に糸を巻き取ることによって必要な長さの糸を得ることができる。

【0010】

50

回転体外周の色分けによって、回転体の回転方向を上記記録時と逆に回転させて使用する場合、同色であることによって、逆回転に対する記録位置を、改めて記録せずとも知ることができる。

【0011】

市販スプールを囲むレールによって、中心部の形状が種種ある市販スプールに対応してその移動の制限が可能となる為、市販スプールの中心部の形状を選ぶことなく使用することができる。

【0012】

回転体の回転方向を台と平行にしたので高さ方向にかさばらない為、蝶番などで接続したスプール台と台とを二つ折りにすることができ、良好な収納性が得られると同時に室内卓上で作業することができる。 10

【0013】

台を箱形にし、回転体をその箱に収納する事によってより良好な収納性が得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0014】

考案を実施するための最良の形態を実施例に基づき図面を参照して説明する。

図2において、回転体1の全面にわたって記録スペース5を設ける。

【0015】

記録スペース5の表面は、記録を使用者が書き換えながら使用する為、且つ、確定した記録は長い間保持しておく必要がある為、簡単に消えない方法がとれる材質とする。 20

【0016】

回転体1の外周に、記録がどこにあるかの目安とするため、糸の長さの誤差が許容できる範囲の回転量で外周を等分し、色を塗り分けて色分け6を設ける。

【0017】

色分け6は、回転体1を市販スプールの形状によって反対方向に回転させて作業する事を考慮して、回転体の直径を対称に同色とする。

【0018】

回転体1は回転中に糸がスムーズに巻かれるよう鰐が付いた円筒形とし、回転させるに便利なよう可倒又は取り外し可能なハンドル7を取り付ける。

【0019】

図1、及び、図3において、回転体1がスムーズに回転し、回転体1の回転方向が回転体1を取り付けた台3の表面と平行になる構造とする。 30

【0020】

台3、及び、回転体1の適当な位置に、回転体1の回転開始位置を表示する。

【0021】

スプール台4には、作業中に、市販スプールが移動しすぎて装置から飛び出さないよう、市販スプールを囲むレール2を取り付ける。

【0022】

レール2の、市販スプールを囲む形状は円形、楕円形、多角形、それらの組み合わせ、又は、それらの一部、等、とし、且つ、市販スプールがスムーズに回転する形状とする。 40

【0023】

レール2の高さは、市販スプールが作業中に装置から飛び出さず、且つ、糸がスムーズに出てくる高さ、形状とする。

【0024】

スプール台4の市販スプールとの接触面は、作業中、市販スプールがスムーズに回転する構造とする。

【0025】

台3とスプール台4の接続は蝶番等でなされ、二つ折りできる構造とする。

【0026】

台3に回転体1の回転数をカウントするカウンターを取り付けても良い。 50

【0027】

台3を箱形にして回転体1をこの箱の中に収納する構造としても良い。

【0028】

スプール台4の市販スプールの接触面は、図1の如く回転体1の設置面と平行又は同じ高さとする。

【0029】

スプール台4は図3の如く回転体1の設置面と角度を付けた坂面として、作業中、市販スプールが滑り落ちる構造としても良い。

【0030】

図3の構造の場合、レール2の向きは図1の場合と逆、即ち、市販スプールが坂面から滑り落ちるのを防ぐ方向とする。 10

【実施例】

【0031】

釣りの仕掛け作りにおいて、使用者が、今後作ろうとして現在持っている既作成の仕掛けを回転体1に巻き取り、その時の回転体1の回転数を記憶する。

【0032】

巻き取った既作成の仕掛けの端が位置する記録スペース5の部分にマークし、記憶した回転数、回転方向、使用する竿の種類、仕掛けの長さ、等、必要な情報をマークの近傍に記録する。

【0033】

回転体1を逆に回転させながら、既作成の仕掛けを元に戻す。 20

【0034】

今後、使用するハリスが巻かれた市販スプールをスプール台に置き、ちちわ結び、サルカン取り付け、等、必要な作業を施し、作業を施したハリスの端を回転体1の鏝に止め、書き込んだ記録に従って、回転体1を必要回転数だけ回転させ、更に記録したマークの位置までハリスを巻き取り、切ることによって既作成の仕掛けと略同じ長さの仕掛けを得ることができる。

【0035】

上記で得たハリスに、ゴム管通し、目印取り付け、針結び、又は、枝ス取り付け、サルカン取り付け、等、必要な作業を施し、回転体1を逆に回転させながら手持ちの仕掛け巻きに巻き取る。 30

【0036】

同様の作業を繰り返すことによって、既作成の仕掛けと略同じ長さの同じ仕掛けを幾つも作ることができる。

【0037】

更に、作ろうとする別の種類の既作成の仕掛けを用意して、既述の作業手順で作業をすることによって別の種類の新たな仕掛けを作ることができる。

【0038】

本考案が携帯型としても使用できるため、釣行に携帯することによって釣行先での仕掛け作りが可能である。 40

【産業上の利用可能性】

【0039】

本考案は釣りの分野を意識したものであるが、糸状のものを扱う分野、例えば手芸の分野、或いは、装置をより大型化強固化して、線材、電線等を扱う線材の分野にも利用できる。

【図面の簡単な説明】

【0040】

【図1】 市販スプールの接触面と回転体1の設置面が同じ高さの装置の斜視図である。

【図2】 回転体1の正面図である。

【図3】 市販スプールの接触面と回転体1の設置面に角度を付けた装置の斜視図である 50

。

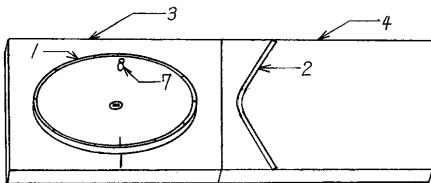
【符号の説明】

【0041】

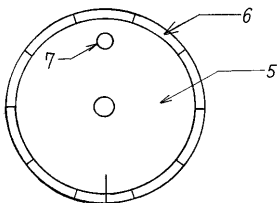
- 1 回転体
- 2 レール
- 3 台
- 4 スプール台
- 5 記録スペース
- 6 色分け
- 7 ハンドル

10

【図1】



【図2】



【図3】

